

～京街道～

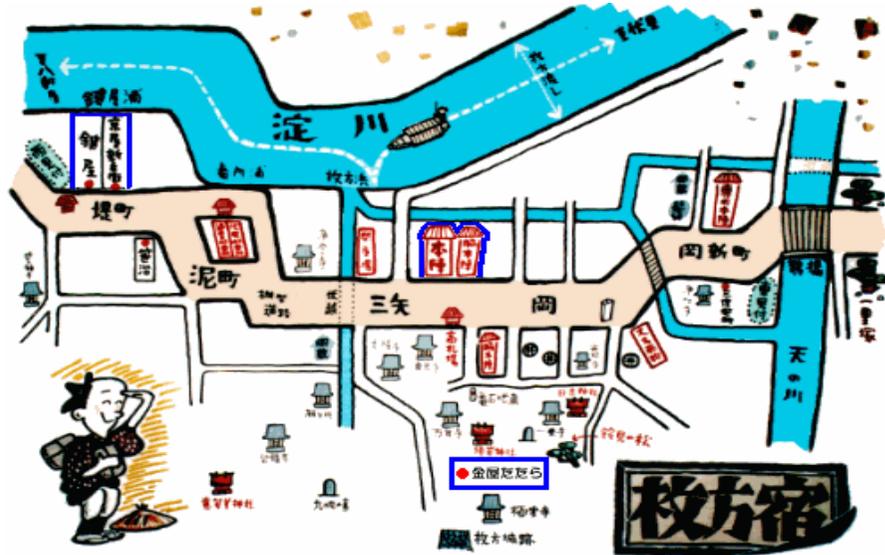
京街道は、豊臣秀吉が文禄3年(1594年)に淀川左岸に文禄堤といわれる堤防をつくらせ、これを道として利用したことに始まりますが、徳川家康の治世になって、東海道をはじめ江戸を中心とした街道整備が進められたことに伴って、それまでの東高野街道にかわっ



枚方宿周辺のお店

～枚方宿～

この京街道に設けられた枚方宿は、五街道を支配する道中奉行の管轄のもと、武家や公家の宿泊所の本陣、脇本陣(場所等は不詳)、問屋場のほか、旅籠や茶屋が軒を並べていました。その規模は、泥町・三矢・岡・岡新町の4村で構成され、東西13町17間(1.5km)、道幅2



あるキングガイド

枚方市は古くから京都・大阪間を結ぶ京街道の宿場町
東海道56番目の宿場町として栄えてきました

～本日の見どころ～

その一、万年寺山 ～展望台からの眺めは最高～

その二、鍵屋 ～今も残る宿場街の面影、古い街並み～



～鍵屋～

三十石船の船宿として栄えた鍵屋(主屋)は、通り庭、起り屋根などの江戸時代の町家の特徴だけでなく、カマヤの位置が街道側にあり、客の出入りが多いために擦り上げ戸になっているなど、船宿の構造を残す貴重な歴史的建造物であり、市の文化財にも指定されています。

～水面回廊～

～万年寺山・喜賀美神社～

京阪枚方市駅の南にある緑に包まれた丘が万年寺山です。
この丘にある意賀美神社の石段を登りつめると、緑の木々の中に標石や
十二重の塔が蒼蒼とそびえ立っていた。それは、五百年前の面影をしのばせてくれます。



淀川水系の古代農耕民が雨乞いと水害排除のために祀ったものかといわれています。
饒速日命五世孫で物部氏の祖である、伊香色男(いかがしこお)の邸内に開化天皇時代に祀られていたともいわれています。
現在は万年山に在るが、明治の神社統合でこの地に在った須賀神社を合祀して遷座した



—意賀美神社の算額—

和算家が数学の問題や解答を書いて神社などに奉納したものが算額で、意賀美神社の算額は摂津麻田藩の岩田清庸が文久元年(1861)に奉納したものです。問題は3問あり、清庸は病に罹り枚方宿内で養生し、神の加護により回復したので感謝の意をこ



整備された散歩道に、約三十人を乗せ、京都伏見と大阪を上下した客船・三十石船のミニチュアが浮かんでいます。



当時の

枚方宿の船着場・鍵屋浦の淀川では、三十石船の船客を目当てに「くらわんか舟」が漕ぎ寄り「餅くらわんか！ 鮭くらわんか！ 酒くらわんか！ ごんぼ汁はどうじゃい！」と、まるで喧嘩でもふっかけるような荒っぽい言葉で、飯や鮭、酒、ごんぼ汁などを売る商売をしていました。この煮売り舟は、滑稽本『東海道中膝栗毛』にも登場しており、「くらわんか舟」と呼ばれ、淀川の名物になっていました。

くらわんか舟:長さ約15m、幅2mほどの小さな舟で、代金は現代の回転寿司と同じく茶碗の数で計算しており、こっそり船べりから淀川へ茶碗を捨てて無銭飲食を企む客が、船主から「くらわんか茶碗」が返ってくると言われていた



主催:NPO法人 ジャパンハートクラブ メディックスクラブ大阪支部
共催:関西医科大学 健康科学センター

